

第6学年 特別の教科 道徳 学習指導案

場 所 6年2組教室

児 童 男子18名 女18名 計36名

指導者 安倍 英 治

1 主題名 真の友情 (友情, 信頼)

教材名 ロレンゾの友達 (『みんなの道徳 6年』学研教育みらい)

2 児童について

児童は、学習でのグループ活動や係・当番活動などで関わりをもちながら、男女ともに協力して学校生活を送っている。また、6年生として互いに協力し、助け合いながら児童会活動や学校行事に取り組んでいる。学校生活でのこのような関わりを通して、良好な友達関係を築くことの良さを感じている様子も見られる。

友達の仲が深まる一方、決まりきったグループ、友達同士での行動が多く見られるようになってきた。また、自分の思いをもちながらもただ一緒に過ごすだけの交流にとどまったり、友達のためになると分かっているにもかかわらず忠告できなかつたりする場面もある。表面的な友達関係から進展させることができない姿も見られ、よりよい友達関係を築くにはどうしたらよいかを模索している様子もうかがわれる。

そこで、相手の立場に立ち、本当に相手の力になることはどういうことなのかを考え、互いに信頼し理解し合って友情を深め、心から助け合っていこうとする心情を育てていく必要があると考える。

3 指導構想

(1) 価値について

本時のねらいとする価値は、高学年の内容項目B- (10) 「友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築くこと。」を内容としている。これは、中学年での「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。」から発展している内容である。

高学年の発達段階から、これまで以上に友達を意識し、仲のよい友達との信頼関係を深めていこうとしている。また、流行などにも敏感になり、趣味や傾向を同じくする閉鎖的な仲間集団を作る傾向も生まれている。そのため、疎外されたように感じたり、友達関係で悩んだりすることが今まで以上にみられるようになり、このことが不安な学校生活につながる状況もみられる。このことから、友達同士の相互の信頼の下に、協力して学び合う活動を通して互いに磨き合い、高め合うような、真の友情を育てるとともに、互いの人格を尊重し合う人間関係を築いていくようにすることが求められる。したがって、この時期に健全な友達関係を育てるため、よりよい友達のあり方を学ぶことには児童にとって意義深いことである。

(2) 教材について

本教材「ロレンゾの友達」は、周囲の噂や偏見に左右されず、友達との信頼関係をもとに行動することの大切さに気付くことができる教材である。罪を犯したかもしれないロレンゾに対して、三者三様の友情のあり方を示すがまとまらず、無実のロレンゾと再会し、友人としてどのようにするべきだったのか改めて考えさせられるという内容である。

この教材を通して、児童はお互いを認め合い、高め合える「真の友情」に気付くことができると考える。「友情」と相對するものが、法律に反することであり、一概に友達を優先することを推進すべきではない。「よい友達」のあり方を話し合うことで、よりよい友達関係について深く考えることのできる教材である。

(3) 指導にあたって

児童の深い学びの姿を次のように捉え、その実現に向けて、以下のような手立てをとる。

<深い学びの姿>

- ・ 友達として、罪を犯したかもしれないロレンゾに対しどうするべきかを話し合い、互いの意見を聞き合う中で真の友情とは何かを考え、自分の友達がいけないことをした場合に、どうしてあげることが大切なのかを考えて判断をする姿

視点1 深い学びを実現する指導計画の工夫

- 年間で2回行われる「友情、信頼」の内容項目の学習について、友達の多様な感じ方や考え方に触れることで、身近な集団の中で自分の特徴などを知り、伸ばしたい自己を深く見つめられるようにするとともに、これからの生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現していこうとする思いや願いを深められるようにする。

「友情、信頼」の指導計画

(6月) 「ロレンゾの友達」 【本時】	(9月) 「ひとみと厚」
<ul style="list-style-type: none">・ 悩みながらも友達のためにどうすべきかを話し合う3人の思いを自分事として考え、本当の友達ならどうするかについての判断力を育てる。(道徳的判断力)	<ul style="list-style-type: none">・ 友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、よりよい人間関係を築いていこうとする意欲を高める。(道徳的实践意欲)

視点2 問題解決的な学習展開の工夫

(1) 主体的な学びを促す手立て

【きづく(導入)】

- ・ 友達とはどんな人のことか、仲のよい友達がいけないことをしていたらどうするのかについてのアンケートの結果を提示することで、児童が道徳的価値に関する問題意識を高められるようにする。

【ふかめる(展開)】

- ・ もし自分がロレンゾの友達だったらどう考え、どう行動するか、その考えの根拠を問うことで自分事として考えることができるようにする。
- ・ ロレンゾのことを思って行動しようとしていた親友3人の中でもよりよい行動をしたのは誰かを問うことで、何が友達のためになるのかを考えることができるようにする。

【みつめる(終末)】

- ・ 実生活で起こりうる具体的な場面について考えることで、本当の友達ならどうするかについての判断ができるようにする。
- ・ 本時の学習で大切だと思ったことや今までの自分と比べて思ったこと、これからの友達とのあり方についてどう考えるように促すことで、どのように行動していくかを実生活で考えることができるようにする。

(2) 対話的な学びを促す手立て

- ・ 書く活動を取り入れ、児童が自分の考えの根拠を明確にし、グループでの議論の場を設定することで、異なる考えに触れながら多面的・多角的に考えることができるようにする。
- ・ 自分の立場を視覚的に捉えられるような発問や板書によって児童の考えを比較したり、価値付けたり、関連付けたりすることで、他者の考えを取り入れつつ、自己の生き方について考えを深めることができるようにする。

4 「友情、信頼」の指導計画

教師の願い

【環境づくり】

- ・ 帰りの会で、友達同士で協力した場面などを紹介し、認め合う場を設定する。
- ・ 友達の苦手な部分を否定し合うのではなく、互いのよさを認め合うようにする。
- ・ 児童がお互いの得意な部分を生かし、友達に教える場面を設定する。

学級スローガン
「オールラウンダー
～仲間と協力し、何事にも全力で～」

友達の立場や気持ちを理解し合い、互いのいいところを認め合った言動をとる子どもに育てほしい。

<学級経営の方針>

- 友達の考えや意見を受け入れられるよう、意見の根拠も大切にできる児童を育成する。
- 学習や行事、日常生活で発生する様々な課題に対し、問題意識をもって臨むことができる児童を育成する。

【家庭との連携】

- ・ 学年通信や連絡帳などを活用し、目指す子ども像に向かっていく子どもの姿を伝える。

【地域との連携】

- ・ 子ども会や地域の行事などの活動を通して、よりよい人間関係が育成されるよう連携を図る。

【目指す子ども像】
お互いの人格を尊重し、協力して学び合おうとする子ども

道徳科の学び

月	特別活動・行事	道徳科の学び	各教科	日常指導
4	<p>1年生を迎える会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生の不安を取り除いたり楽しませたりするために、みんなで協力しようとする態度を養う。 	<p>「ロレンゾの友達」(本時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の立場や気持ちを理解し、本当の友達ならどうするかについての判断力を育てる。(道徳的判断力) 	<p>国語「つないで、つないで、一つのお話」</p> <p>友達の言葉を受け、それに合うような言葉を考えてお話を作ろうとする態度を養う。</p>	<p>係当番活動、グループ学習、行事など様々な活動で友達と関わるとき、お互いの苦手な部分を指摘し合うのではなく、いいところを見つけて認め合いながら活動できるようにする。</p>
5	<p>児童総会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と協力しながら主体的に学校をよりよいものにしようとする態度を養う。 		<p>音楽「星の世界」</p> <p>互いの声を聴き合いながら、バランスに気を付け、友達の声と溶け合うように歌おうとする態度を養う。</p>	
6	<p>運動会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちの力をすべて出し切り、仲間と協力して運動会を作り上げようとする態度を養う。 		<p>図工「うつつて見つけたわたしの世界」</p> <p>自分や友達の表現のよさや工夫を感じ取ろうとする態度を養う。</p>	
10	<p>修学旅行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 互いに協力して計画を立て行動しながら、友達の新しいよさにも気付くようにする。 	<p>「ひとみと厚」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、よりよい人間関係を築いていこうとする意欲を高める。(道徳的实践意欲) 	<p>体育「短距離走・リレー」</p> <p>友達とのバトンパスや他のチームの工夫などを学び合い取り組もうとする態度を養う。</p>	<p>教師が児童の様子を観察し、友達のために行動している児童を紹介したり、友達同士で互いのよいところを伝えたりする。</p>
11	<p>音楽学習発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発表会に向かって互いの声を調和させて歌おうと、主体的に取り組もうとする態度を育てる。 	<p>体育「ゴール型」</p> <p>チームの特徴に応じた作戦を立て、ゲームに生かそうとする態度を養う。</p>		
12				

5 本時の指導計画

(1) ねらい

- ・ 悩みながらも友達のためにどうすべきかを話し合う3人の思いを自分事として考え、本当の友達ならどうするかについての判断力を育てる。(道徳的判断力)

(2) 展開

(主) 主体的な学びを促す手立て・(対) 対話的な学びを促す手立て

段階	主な学習活動・学習内容	教師の支援 (◇評価)	資料等
きづく (8分)	<p>1 価値についての意識を高め、話合いの方向をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ もし、仲の良い友達がいけないことをしていたら、どう行動しますか。 ・ 見て見ぬふりをする。 ・ 注意してみる。 <p>本当の友達とは何だろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前にとったアンケート結果について提示することで、日頃の友達との関係を想起し、問題意識を共有できるようにする。(主) ・ 一緒にいて心地よいつながりだけが友達なのかを問うことで、本当の友達について考えていく方向付けを図る。 	アンケート結果
ふかめる (22分)	<p>2 教材「ロレンゾの友達」を読む。</p> <p>3 教材について話し合い、価値について考える。</p> <p>(1) ロレンゾの噂を聞いた時の3人の気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ロレンゾが警察に追われているという話を聞いた時、3人はどんなことを思ったでしょうか。 ・ 本当にそんなことをしたのかな。 ・ まずいことしたな。 ・ 話を聞いてみたい。 <p>(2) 自分がロレンゾの友達だったら、どの考えに近いか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 自分がロレンゾの友達だったら、3人のうちのどの考えに近いか理由をつけて考えましょう。 ・ アンドレ いけないことをしたかもしれないが、何か事情があるかもしれないし、逮捕されるのはかわいそうだから逃がしてあげたい。 ・ サバイユ 事情があったとしても罪は罪だから、自首を勧める。でも、ロレンゾが納得しなかったら友達だから逃がしてあげたい。 ・ ニコライ 自首したほうがいい。不安かもしれないから一緒に行ってあげる。逃げたらいつか捕まるかもしれないという不安を抱えて、ずっと苦しい思いをするだろう。友達だからこそ警察に言う。 ○ 3人は誰のことを思って対応を考えているのでしょうか。 ・ ロレンゾのことを思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ロレンゾの噂を聞いた友達3人の気持ちを共感的に捉えることを通して、4人の間には、互いを気遣う気持ちがあることに気付くことができるようにする。 ・ ロレンゾに対する友達3人の考えを整理しながら板書することで、児童が友達の考えに触れ、自分の考えを自覚したり、深めたりすることができるようにする。 <p>自分の立場を視覚的に捉えられるよう可視化することで、児童の考えを比較したり、価値付けたり、関連付けたりし、自分事として捉えられるようにする。(対)</p>	紙板書 ノート
みつめる (15分)	<p>4 自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の友達が、教室の担任の机の上にあるタブレットを落としてしまい、画面が割れてしまいました。あなたはその場面を見ており、その友達はそのことを黙ってほしい旨をあなたに伝えてきました。そのとき、あなたはどうか考え、どう行動しますか。 ・ 友達に同意し黙っていてあげる。それが友達のためだと思うから。 ・ 先生に話したほうが良いと伝える。本人が嘘つきになってしまうようにするため。 <p>5 本時の振り返りを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実生活で起こりそうな例について考えることで、本当の友達ならどうするかについての判断ができるようにする。 ・ 自分の考えをもった上でグループで話し合う場を設定することにより、多様な考えに触れながら自己の考えを深めることができるようにする。 ・ 振り返りの視点を明らかにすることで、自己の変容を自覚できるようにする。 <p><振り返りの視点></p> <ol style="list-style-type: none"> ①今までの自分と比べて。 ②今日の学習で大切だと思ったこと。 ③これからのこと。 	ノート

(3) 評価の視点

- ・ 本当の友達のあり方について自分事として捉え、考えを深めることができたか。